



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第401号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコミキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

つながる・広がる・支え合う～並木小・5年生「高齢者疑似体験をしよう」

並木小5年生が高齢者疑似体験を行いました。この体験には、北地区社会福祉協議会より10名、また我孫子市社会福祉協議会とボランティアセンター「てとりあ」より2名の方が来てくださいました。体験活動は体育館で実施。全体での説明を終えると三か所に分かれて体験しました。

一つは、白内障の見え方が体験できるゴーグルを身に付けて、提示された資料で見え方を確認しました。ゴーグルを外して実際の見え方と比較して、白内障の方の見えづらさを体感しました。一つはベストと首と手首足首に重りを付けて、肘とひざにサポーターをつけて関節が曲がりにくい状態を作り、肩から膝にかけて、動きが制限されるベルトを着け、腰が曲がった状態で歩行体験をしました。体育館の真ん中で折り返し、2回目は杖を用いて歩行しました。高齢者が、杖を用いることで少しだけ楽に歩行できることを身をもって感じる事ができました。一つは、軍手を両手に着用し、お箸で豆をつまんだり、落としたお金(硬貨)を拾ったり、新聞をめくったりして、感覚の不器用さを体感しました。

これらの体験グッズは我孫子市社会福祉協議会が所有しており、ボランティアセンターで管理しているそうです。久寺家中区のオリジナルカリキュラムの福祉教育の一環で行われた体験です。高齢者への配慮を学び、「支え合う」社会の実現に向けた取り組みだと感じました。



つながる・広がる・支え合う～根戸小・3年「パラスポーツ・ペガーボール」

根戸小学校の3年生がオリジナルカリキュラムの一環で我孫子特別支援学校の先生や我孫子市スポーツ推進委員の方をお招きし、パラスポーツ「ペガーボール」の体験授業を実施しました。

このペガーボールは、聴覚障がい児や知的障がい児の運動意欲を高めるために生まれました。ペガーボールは、スペイン語で「くつつく」という意味のスポーツであり、特殊なポンチョを着た「ペガーマン(オニ役)」に向けてボールを投げて当て、ボールをくつつける競技です。

活動が始まる前にボールが渡されると子ども達は「柔らかい。ふわふわする。」と興味津々の様子です。無我夢中になってボールを扱っていました。

活動が始まると段階的に「動かないペガーマンに向けてボールをくつつける練習」、「離れた場所からボールを投げてくつつける練習」、最後には実際に動くペガーマンにボールを投げ、くつつけた個数をチームで競うゲームを行いました。活動の中で子ども達は「どうしたら上手にペガーマンにボールをくつつけることができるか」を考え発表したり、ペガーマンの顔にボールを当てないように加減したりと試行錯誤しました。活動中全員が安全に楽しむことを意識しながら体験している姿が見られました。

久寺家中学区の福祉教育プログラムの一環として行われたペガーボールです。今回、パラスポーツを楽しむことを体験し、パラスポーツに興味・関心を持つ動機付けとなる学習でした。

